

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加納高等学校 学校運営協議会（ゆめ会議かのう）（第2回）
- 2 開催日時 令和5年10月 3日（火） 10:00～11:30
- 3 開催場所 加納高等学校 白梅会館2階
- 4 参加者 会長 高橋 利行 池田町教育長
副会長 富樫 幸一 岐阜大学名誉教授
委員 小島 紀夫 （公財）岐阜県教育文化財団総合プロデューサー兼支配人
杉本 昭一 アデコ株式会社ソリューションセールス事業部マネージャー
竹内 正伸 加納西自治会連合会代表

学校側	高橋 宗彦	校長
	向田 富紀子	教頭
	松井 由香	事務部長
	藤田 英博	総務運営部長
	堤 寛司	総務運営部担当
	ゆめ加納プロジェクトの報告	教員3名
	スクールポリシーについて	生徒との意見交換 6名

5 会議の概要（協議事項）

（1）ゆめ加納プロジェクトについて

委員とプロジェクトの教員との間で意見交換をおこなった。

意見1：2年生の文理選択について生徒の希望を6月に調査、12月で決定する制度となっている。また将来の進路について、まだ定まっていない生徒が、この段階で文理選択が可能なのか疑問である。

意見2：学年制から単位制へと移行したが、選択の幅が狭く形式的となりがちである。

意見3：単位制をいかして苦手科目を克服できるような授業を展開できるとよい。

意見4：文理選択は受験方式との適合を考えているだけで、生徒の適性とは別の話である。生徒にとって必要なのはジェネラルな力（リベラルアーツ）である。生徒にはいろんな可能性を秘めていて、高校生で将来を決めるのは難しい。

意見5：大学は文理融合の世界である。文理選択を考える前にどんな自分でありたいか、生き方を探究できる時間があるとよい。

意見6：現在、他校事例を研究し、文理選択を3年次に実施可能なカリキュラムを模索している。

（2）スクールポリシーについて

委員と生徒との間で意見交換をおこなった。

意見1：普通科、音楽科、美術科の3学科があることが一番魅力である。それぞれの学科の頑張りが実感できる。

意見2：自由な校風がよい。3学科の交流がもっとあるとよい。多様な生徒と関わることが自分の成長につながるはずである。

意見4：3学科がそろそろワークショップを設定すればよい。

意見5：ワークショップを生徒側から提案し、デザインしてみるとよい。生徒が動ないと続かない。また、そこに卒業生が関われるようになると伝統になる。

6 会議のまとめ

文理選択の時期の変更も視野に入れて、加納高校の生徒の実態にそうカリキュラムを研究する。そのために、他県の高校も視察し見識を深め、新しいカリキュラムを検討する。

普通科・音楽科・美術科の交流が深まり、それぞれの学びが深まる機会を模索・検討を行う。